過不足

平居謙

卒業後ホチキス留めの詩集を
何冊か携えて上京した 40 年近く前

東京の田舎町のサンドイッチ屋で働いた
明治大学に潜り込んで大岡信の授業を聴いた
文学研究会にも潜り込んで新歓コンパにも出た
おれはニセ学生だった

三本立て名画座で古い映画を観た後
早稲田の古本屋街を歩いた
様々な書籍がワゴンに無造作に置かれ
投げ売りされていた

どの本も埃を被っていたが
おれの詩集はワゴンにおいてもらう資格さえない
コピー用紙の袋綴じだった

現代社会で詩集を出すのは
砂浜で星屑を探すようなものだ
と英文学の教授が大学時代に言っていたのを
その時突然思い出した

しかし
その時おれはまた確信したのだ

過不足なき生は
存在しない、と

過不足なき生は
存在しないと
確信したのだった